

力餅

力餅とは、地元の言い伝えから閃いた地域のお菓子で、ついたもち米をパン生地状に薄くしたものに餡子を包む、または軽くてサクサクした米粉のワッフルの間に餡子を挟んだものである。このお菓子は、1887年から由良町において家族経営で商売をしている菓子屋が1995年に考案したものである。

この言い伝えはお菓子の包み紙にも反映され、伝統的な民話に描かれている鳥のような顔をした鬼である「天狗」の顔の挿し絵が入っている。その言い伝えによると、近くの興国寺が全焼した後近くの山から放浪の僧がやってきて援助を申し出、寺の僧侶と村人が家に帰って夜明けまで家にいるという条件で寺を再建する約束をしたという。翌日目が覚めると寺は再建されていたが僧侶の痕跡は見つからなかった。人々はこの偉業は人間の姿を装っていた全能の「天狗」の仕業に違いないと結論付けた。「天狗」の好物だと言われている餅を主な材料として用いることで、この言い伝えを伝承している。